

文部科学大臣

川 端 達 夫 殿

社団法人 全国学校栄養士協議会
会 長 市 場 祥 子



今後の学級編成及び教職員定数の改善に関する意見聴取について

日頃は本協議会にご指導、ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。
標記について下記の通り、本協議会としての改善要望をご報告いたします。

記

- 1 学級編成について・・・・・・・・1学級 35人編成を希望します。
- 2 栄養教諭・学校栄養職員の定数について
 - (1) 栄養教諭の配置基準は、学校栄養職員と分けてください。
 - (2) 栄養教諭の職務については、学校栄養職員の職務に加え、食に関する指導の職務が追加されていることを踏まえて配置基準を改善してください。・・・資料(2)参照

<要望理由>

1 学級編成について

教育の成果を上げるには個に寄り添う授業が重要で、児童生徒数が少ないほうが、よりきめ細かな指導ができるので、35人学級を希望します。

2 栄養教諭・学校栄養職員の定数について

- (1) 栄養教諭制度がスタートして5年が経過し、現在全国で約2700名配置されていますが、総数の4分の1にも満たない状況です。栄養教諭が取り組む食育の成果は顕著であり、この食育がすべての子どもたちに行き渡るように、将来的には学校栄養職員の全員が栄養教諭に切り替わるとともに学校給食を実施する全校に配置されることを本協議会としては目指しています。
- (2) 学校における食育は、栄養教諭が中核となって指導と管理を一体的に展開して取り組むことになっています。衛生管理を徹底し、食育の教材となる学校給食の実施、食物アレルギー児等をはじめとする個別指導等を充実していくためには、栄養教諭の配置の拡大が必要です。
- (3) 新学習指導要領の総則には、食育の推進に取り組むことが明示され、栄養教諭の専門性を活かすことが益々期待されています。
- (4) 栄養教諭制度の創設理由には、生活習慣病の予防もあげられており、ひいては国民の医療費削減も期待されています。

これらの期待に応えるためにも、食習慣の乱れが心配される児童生徒が、正しい食の知識や選択する力、望ましい食習慣を身につけるために、緊急に食に関する指導の充実が望まれます。しかしながら、現在の配置基準の下では、単独給食実施校では4校を1人で担当したり、共同調理場においては10数校の受配校を担当したりする者もあり、食に関する指導に充分力を果たせない状況にあります。栄養教諭が職務に充分力が発揮できるように、そしてその指導が子どもだけでなく家庭や地域にも及ぶようにぜひ、配置基準が改善されることを切望します。

<資料>

(1) 現在の配置基準（公立義務教育諸学校の教職員定数法における学校栄養職員等の定数）

① 単独給食実施校

- 学校給食を受ける児童生徒 550 人未満→4 校に 1 人
- 学校給食を受ける児童生徒 550 人以上→1 校に 1 人
- 550 人未満の給食実施校が、3 校未満の市町村に 1 人

② 共同調理場

- 共同調理場に係る学校の児童生徒数が 1500 人以下 1 場に 1 人
- 共同調理場に係る学校の児童生徒数が 1500 人～6000 人以下 1 場に 2 人
- 共同調理場に係る学校の児童生徒数が 6000 人以上 1 場に 3 人

(2) (要望案) 栄養教諭の配置基準

① 単独給食実施校

- 学校給食を受ける児童生徒 420 人未満 2 校に 1 人
- 学校給食を受ける児童生徒 420 人以上 1 校に 1 人
- 420 人未満の給食実施校が 1 校の市町村では 1 人

② 共同調理場

- 共同調理場に係る学校の児童生徒数が 1000 人以下 1 場に 1 人
- 共同調理場に係る学校の児童生徒数が 1000 人～3000 人以下 1 場に 2 人
- 共同調理場に係る学校の児童生徒数が 3000 人～5000 人 1 場に 3 人
- 共同調理場に係る学校の児童生徒数が 5000 人以上 1 場に 4 人

(3) 現在の学校栄養職員数等 関連数値（平成 20 年度）

① 全国の小中学校数(公立) 小学校 21823 校 (給食実施校 21614 校)

中学校 10053 校 (給食実施校 8198 校)

※給食実施校は完全給食及び補食給食実施校数

② 学校栄養職員及び栄養教諭数 12064 人 (市町村費負担職員を含む)

うち栄養教諭については平成 21 年 9 月 30 日現在で 2663 人

(4) 学校における食育の成果（社団法人全国学校栄養士協議会アンケート結果より他）

別添の資料（グラフ）参照

「早寝早起き朝ごはん」アンケート集計結果

調査実施：（社）全国学校栄養士協議会

実施期間：平成21年6月

平成22年目途に小学生の朝食欠食率をゼロにするという数値目標が、国の食育基本計画の中であげられている。「朝食を食べる」ことは、元気に一日をスタートさせ、生活習慣病を予防し、ひいては健康的な心身を育むことにつながることから、児童生徒の実態を把握し、各支部、各栄養教諭、学校栄養職員は実態に基づいた食育の推進に力を注いできた。

この度、平成21年3月～4月にかけて実施した「早寝早起き朝ごはんアンケート」調査の結果をまとめ、本会が行った平成18年度結果との比較を試みた。結果は、以下に示したとおり、「眠る時刻」「毎朝朝食を食べる」「朝食の内容」「牛乳飲用」「運動」全ての項目において改善が見られた。中でも、「毎朝朝食を食べる」割合は、質問2（結果）に示すとおり、小学生、中学生共に高くなり、その内容においても、「主食におかずを加える」というバランスのよい食事がふえた。この結果は栄養教諭の配置が一步ずつ進む中で、学校における食育の成果のあらわれだにとらえたい。さらに、学校・家庭・地域の共通認識と足並みのそろった取り組みが必要と考え、この調査結果を「第4回食育推進全国大会IN島根」の本協議会ブースで発表し、本協議会ホームページにも掲載する予定である。

○ 調査対象者：（47都道府県支部）

全国小学校5年生 263,049人（男子 135,596人 女子 127,653人）

全国中学校2年生 190,734人（男子 96,245人 女子 94,489人）

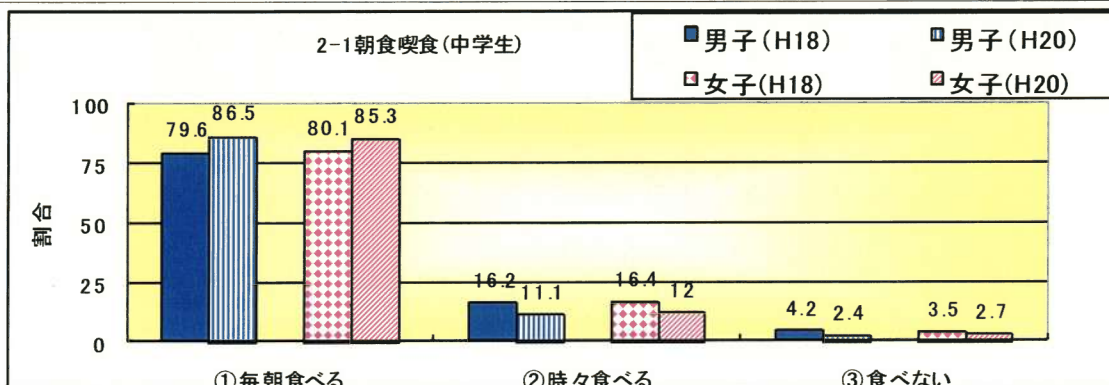
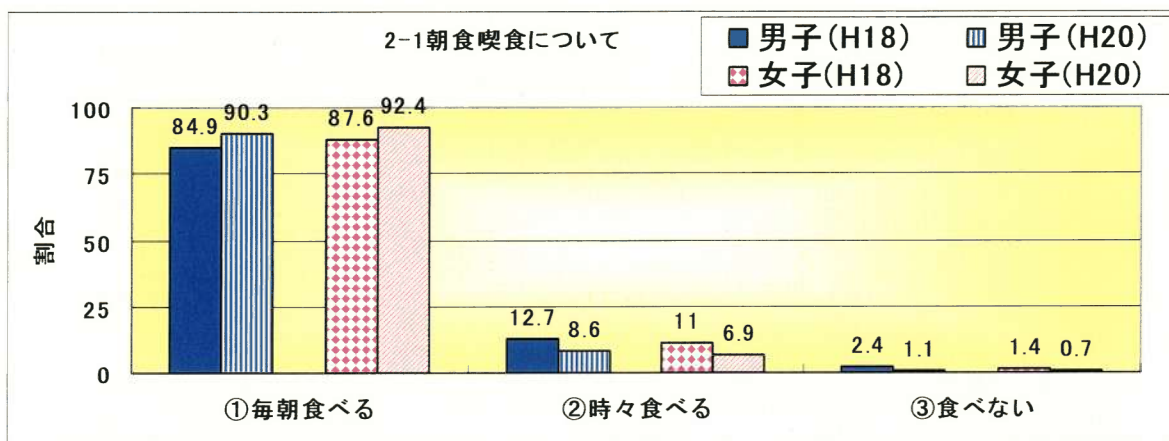
2. 朝食について

2-1 朝食をたべますか。

☆ 食育基本計画では平成22年までに小学生の欠食率を0に！

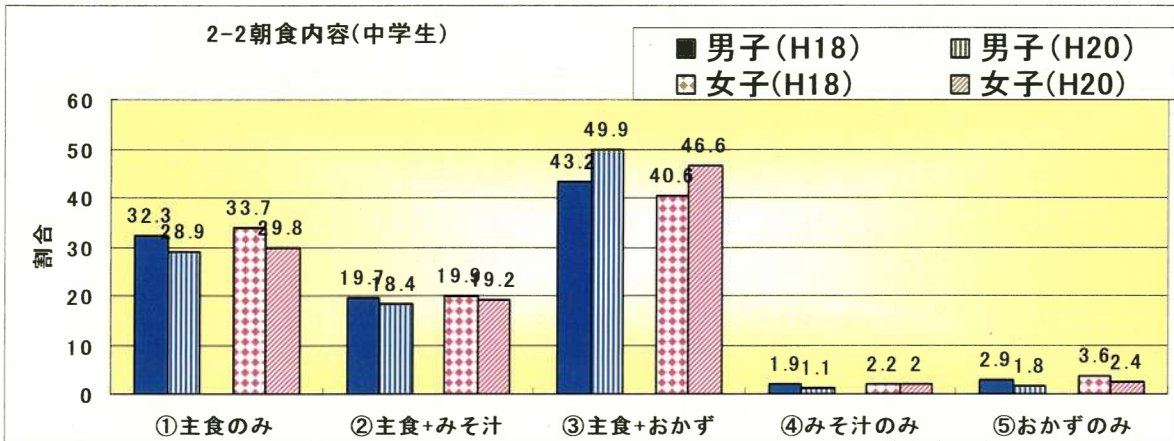
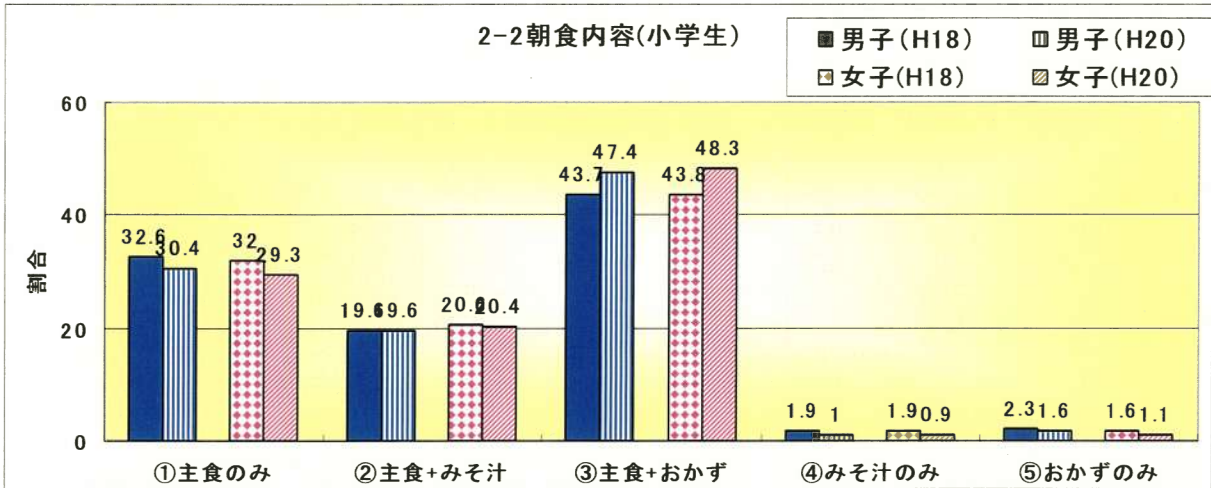
全国小学校5年生の朝食欠食率は 13.7 % (H18) →

中学校2年生の朝食欠食率は 20.1 % (H18) →

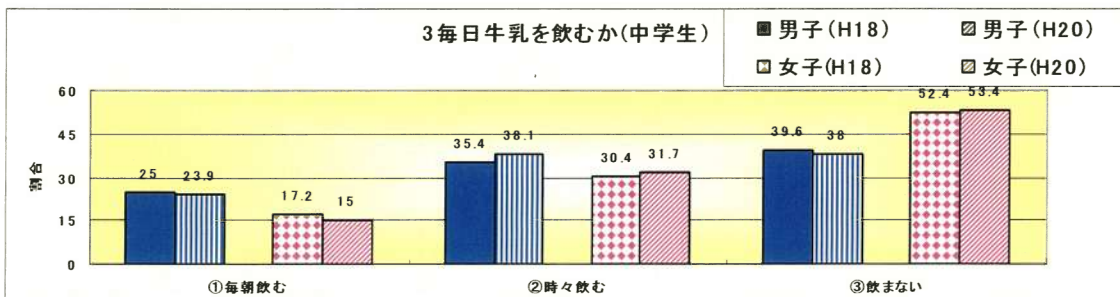
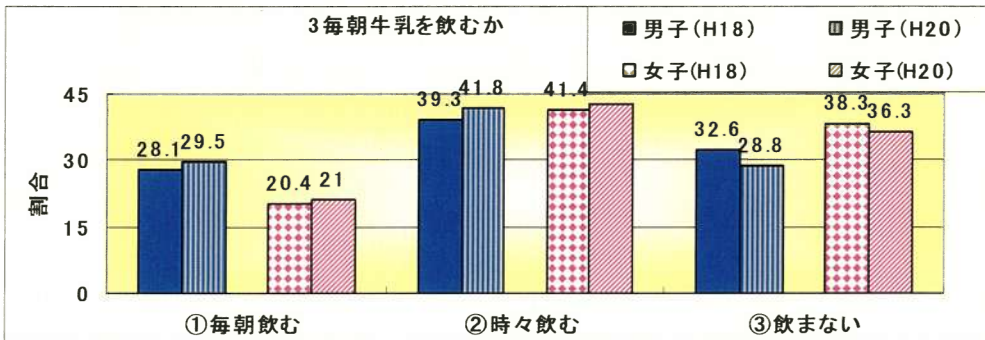


朝食を食べている、でもその内容は？

○「主食のみ」から「主食とおかずのそろったもの」へ改善がみられました。



3. 毎朝、牛乳を飲みますか。



☆ 待ったなしの成長期、体は多くのカルシウムを必要としています。

中学生女子は、飲まない割合が高くなり、課題を残しました。